

## ■ 綱島 長蔵 (つなしま ちょうぞう)

生年不詳～寛政3年1月13日 (～1791)

明治44年(1911)陰暦正月19日に綱島豊佐久・長治が記した「綱島長蔵直訴の事」によると『我が家の系図中 川関時代の末世に長蔵という人あり 当時川関村の庄屋たりしがこの頃村内の民力甚だしく衰耗し困窮たとえんにもものなし 長蔵この状を見て黙過し得ず敢然として救済を思い立ち 時の所轄亀山藩中津井代官に出頭してこの惨状をつぶさに述べ 年貢米被免のことを嘆願するところとなる 然れども時は徳川幕府の封建治下のことこのような願望が容易に聴許される筈はなく果たせるかな その回答は願意不採用の厳命となって示されるに至る されど長蔵これに屈することなく更に嘆願を繰り返し あくまで願意の達成に努めて動かず その結果は代官をしていよいよ激怒せしめ「この上重ねて請願に及ぶ時は帯びるところの刀剣のみね打ちを加うべし」と 遂に赫怒を買うに至る 長蔵何ら屈することなく従容自若として曰く「この願望にして成らずんばわれ今貴官のいう太刀のみね打ちを受くるよりもむしろその刃をもって打たれることを望む」と その言たるや壮烈凛として 動かざること山の如きものあり さすがの代官も今更ながら長蔵の大胆にして思操高潔 愛民の情熱真に動かすべからざるものあるに驚き 直ちに長蔵の願意を採用した上 金穀まで下賜して村人の疲弊を救済するところとなる 今まで事の成り行きを見守って息をころしていた村人達も この成果を知って蘇生の喜びに雀躍し 庄屋長蔵の恩恵を永く忘るべからずとなし 子孫相伝えて今日に至れりとか』とある。

長蔵は直訴後、長代に蟄居謹慎し、彼地で没した。その後文久3年(1863)に長代村の庄屋綱島孫右衛門と川関村の庄屋難波庸右衛門が発起人となり、川関村の旧綱島屋敷のすぐ上にある妻の墓の側に移している。また、この墓地に慰霊の碑があり、「天明飢饉川関村義人庄屋綱島長蔵慰霊之碑」と彫られている。平成3年(1991)には、没後二百年祭が行われ、記念柱が立てられている。